

異文化理解への旅～上海から横浜～

特別講演会



実施日: 2021年11月17日

実施方法: Zoomオンライン

リーダー: 共同教育学部 家政専攻1年(氏名省略) / 情報学部 情報学科 1年 滝沢 快斗

講演者: 群馬大学 国際センター 講師 陳 雲蓮先生



概要

特別講演会とは、GFL生が自分たちで講演者を自由に考え、主体的に開催する行事である。共同教育学部と情報学部が主催する本講演では、『異文化理解への旅～上海から横浜～』と題し、群馬大学国際センター 講師 陳 雲蓮先生にご講演いただいた。講演のテーマである異文化理解に焦点を当て、陳先生のフィールドである上海と横浜を中心に建築の観点からお話ををしていただいた。

講演内容

1) 異文化理解とは

異文化理解と聞いて、何を思い浮かべるだろうか。陳先生によれば、群大生が思い浮かべる異文化の主な潮流として、政治・宗教・教育やジェンダーなど身近な文化があげられるのに対し、芸術、文学、建築、さらにはトイレといったあまり一般的ではない文化については異文化として認識されない傾向にあるようだ。異文化理解では、そういった文化として認識すらしていないことも文化として解釈し、その違いを認識していくことが大切である。異文化理解というテーマは簡単なように見えて実はかなり奥が深いテーマとなっている。

2) 上海と横浜を通して中国と日本の違いを観る

本講演では、上海と横浜の豊富な写真を示していただきながらその違いを探っていった。まず、上海と横浜の都市起源から、中国は外国の建物を積極的に取り入れるのに対し、日本はかなり自国の建物を残そうとするといった違いが読み取れた。また、中国と日本の水辺の景観の違いから、日本では埋め立てが進んでおりあまり水辺の景観を残さない。そういう水辺の空間や景観に対する中国と日本の価値観の違いのようなものが感じ取れた。さらに上海では、旧ジャーディンマセソン商会といった建築は有料で公開されているのに対し、横浜にある旧ベリック邸などの建築は無料で一般公開されている。このことから、中国では建築などの文化財は商業目的で利用される傾向があるのに対し、日本は文化財を博物館・美術館のような形で無料公開するといった教育目的で利用する傾向がみられた。

3) 常日頃から見逃している『豊かさ』

質疑応答の際に、GFLの学生から陳先生へ、「今までで一番感動した建築は何ですか」という質問が投げられた。陳先生はそれに対して、岡山にある後楽園の斜めに曲がった橋の写真を示しながら、何気ない日常の風景に感動していると回答された。これまでの陳先生のお話やこの回答を聴いて、私たちの周囲には、建築に限らず多くの感動できる豊かなものであふれており、意識していないがためにその存在に気付かず通り過ぎてしまっていたことに改めて気付かされた。

4) 陳先生からGFL生へのメッセージ

最後に、陳先生からGFL生へ向けて、「母国語以外の言語を最低限一つ覚えよう」というメッセージをいただいた。本講演はすべて日本語で行われたが、陳先生は中国のご出身で日本語は母国語ではない。それにも関わらず、全く違和感のない日本語で講演されていて、多くの方がとても驚かされたことだろう。言語は自分の意見や考え方を表現するための重要な手段の一つである。グローバル化が進む現代において、日本の学生、特にGFL生のような人材には、母国語以外でのコミュニケーションスキルが求められていると強く感じられる講演であった。

総括

本講演では、重要な4つのお話をしていただいた。1つ目は異文化理解とは何かについて。2つ目は上海と横浜の違いから観る中国と日本の異なる文化について。3つ目は日常に潜んでいる豊かさを意識して過ごすこと。4つ目は母国語以外の言語を身に着けること。本講演を通じて、新しく知ったこと、改めて気付かされたことが多くあり、とても有意義で充実した講演会であった。

謝辞

ご多忙にもかかわらず講師を務めてくださった陳先生、そして講演会の準備の際にアドバイスをしていただいた荒木先生、郡司先生、並びに事務の方々に心より感謝申し上げます。



図1. 広報ポスター

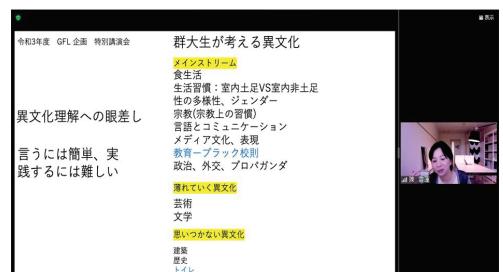


図2. 講演の様子1

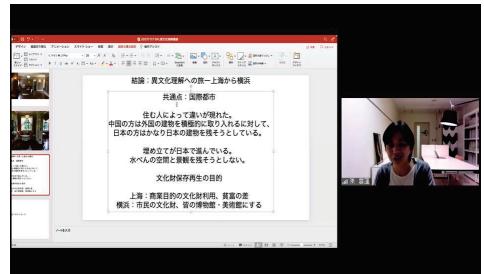


図3. 講演の様子2



図4. 講演の様子3